

### 第37週の発生動向 (2007/9/10~2007/9/16)

- 手足口病については、上十三保健所管内において第34週から**警報**が継続しています。
- ヘルパンギーナについては、上十三保健所及びむつ保健所管内において第34週から、東地方+青森市保健所管内では第27週から**警報**が継続しています。

### 第37週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数							
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(100) インフルエンザ															0												
(72) RSウイルス感染症															0												
(73) 咽頭結膜熱	3	0.33	2	0.22							1	0.25	6	0.14	-12				3	0.38							
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.78	16	1.78	2	0.22					12	3.00	37	0.88	3				7	0.88							
(75) 感染性胃腸炎	7	0.78	5	0.56	4	0.44	2	0.40			5	0.83	24	6.00	47	1.12	-9	4	4.00	3	0.38						
(76) 水痘	8	0.89	4	0.44	2	0.22					8	1.33	5	1.25	27	0.64	14			8	1.00						
(77) 手足口病	21	2.33	8	0.89	16	1.78	9	1.80	16	2.67	9	2.25	79	1.88	-6				21	2.63							
(78) 伝染性紅斑					2	0.22					1	0.17			3	0.07	0										
(79) 突発性発疹	6	0.67	4	0.44	6	0.67	2	0.40	3	0.50	5	1.25	26	0.62	9	1	1.00	5	0.63								
(80) 百日咳																0											
(81) 風しん																-1											
(82) ヘルパンギーナ	31	3.44	13	1.44	3	0.33	5	1.00	22	3.67	67	16.75	141	3.36	-19	10	10.00	21	2.63								
(83) 麻疹(成人を除く)																0											
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11	1	0.11	6	0.67					2	0.33	2	0.50	12	0.29	2			1	0.13						
(86) 急性出血性結膜炎																0											
(87) 流行性角結膜炎							4	4.00					4	0.36	3												
(95) マイコプラズマ肺炎					2	2.00					1	1.00	3	0.50	0												

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数 0

表 以外の感染症法対象疾患 (注: 結核については4月1日からの累計で、届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 五所川原1人、弘前2人 (19年計: 116人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): むつ1人 (19年計: 32人)
- (19) A型肝炎(四類全数把握疾患): 弘前1人 (19年計: 2人)

## 感染症の窓

## 無菌性髄膜炎

(基幹定点把握疾患)

(人/定点)

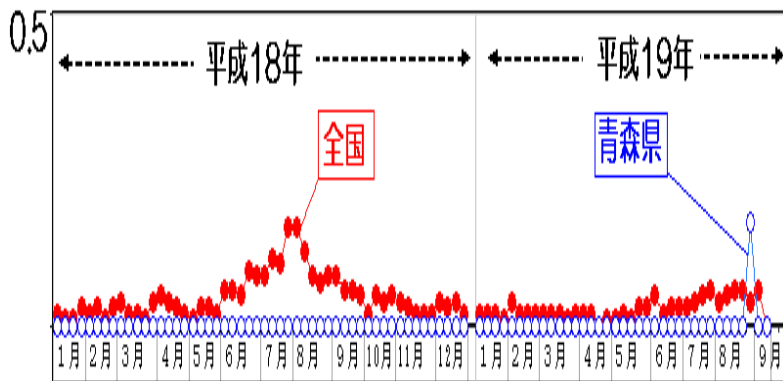


図1 全国及び青森県における2年間の届出数推移

表1 無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス (統計データ: 国立感染症研究所 2007/9/18現在)

	検出数	割合
コクサッキーB5	58	43.6%
エコー30	25	18.8%
エコー9	7	5.3%
エンテロウイルス	5	3.8%
コクサッキーB3	4	3.0%
コクサッキーB2	2	1.5%
コクサッキーB4	2	1.5%
エコー18	2	1.5%
コクサッキーA10	1	0.8%
その他のエンテロウイルス	2	1.5%
ムンプスウイルス	11	8.3%
その他のウイルス	14	10.5%
<b>合計</b>	<b>133</b>	<b>100.0%</b>

本疾患は、種々のウイルスを原因とする髄膜の感染症です(表1)。臨床症状は、項部硬直、ケルニッヒ徴候などの髄膜刺激症状、その他発熱、頭痛、嘔吐、粘膜疹、心外膜炎などです。例年6月から9月に流行しますが、本県の患者定点医療機関による感染症発生動向調査では、基幹定点把握である本疾患の平成18年届出数は0人で、19年第35週は、八戸保健所管内において1人の届出がありました(図1)。一方、県内病原体定点医療機関より無菌性髄膜炎が疑われた検体(搬入期間:平成18年9月~12月)から検出されたウイルスは、コクサッキーB5、A5ウイルス、エンテロウイルスなどです。**感染予防** 基本的には、糞口又は飛沫感染なので、**うがい、十分な手洗い**など、普段からの予防対策が重要です。